

## 細菌性赤痢(2007)

細菌性赤痢は、2007年4月1日に施行された感染症法の一部改正において、コレラ、腸チフス、パラチフスと共に、三類感染症に移行しました。赤痢菌は、*Shigella dysenteriae*(A亜群)、*S.flexneri*(B亜群)、*S.boydii*(C亜群)*S.sonnei*(D亜群)の4血清群に分けられ、糞便で汚染された飲料水や食物等からの経口感染が主です。実験的に数十～数百といった少ない菌量で感染することが報告されており、特に、施設や保育園など、集団で生活する場における発生事例に対しては感染拡大を防ぐ意味でも、警戒が必要です。

埼玉県内で2007年に検出され、衛生研究所で確認された赤痢菌64株の血清群と薬剤感受性を表に示しました。2004年～2006年の3年間で分離確認された菌株が65株(SIASR6月号参照)であったことを考えれば、その増加ぶりが目をひきます。これは、2007年4月～10月にかけて県西部の福祉施設において、*S.sonnei*による集団感染事例により55名の菌陽性者が発生したことが大きく影響しています。また、2004年～2006年では推定感染地が海外と考えられる例が分離株の72.3%を占めていましたが、2007年はすべて国内感染例でした。血清型では*S.sonnei*が集団感染事例の影響で、62株とその大半を占めていました。赤痢菌は薬剤耐性菌が多く、今回分離された64株中59株(92.2%)が供試した12薬剤\*のいずれかに対して耐性を示しました。一方、供試した12薬剤すべてに感受性であった*S.sonnei*5株は県西部の同一保健所管内で11月初旬から中旬にかけて分離され、共通の感染源が示唆されましたが、その究明には至りませんでした。

今後とも原因究明調査等へのご協力をお願いします。

\*CP.SM.TC.KM.ABPC.NA.CTX.CPFX.GM.FOM.NFLX.SXT

埼玉県で分離された赤痢菌の血清型別薬剤感受性別検出数(2007)

耐性パターン	菌名			計
	<i>S.flexneri</i> 2	<i>S.flexneri</i> 2a	<i>S.sonnei</i>	
CP,SM,TC,ABPC,SXT	1	1		2
SM,TC,NA,SXT			57	57
感受性			5	5
計	1	1	62	64